

むくのきだより 5月号



令和5年5月2日

港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

基礎をつくる ～幼児期の学び～

園長 中村 美奈子

青空に、年長ゆり組の子供たちが作った色鮮やかなこいのぼりが、元気よく泳いでいます。昨年は、小さな鯉のぼりを作って満足していた子供たちでしたが、今年はグループで相談して模様や色を決め、自分と同じくらい大きいこいのぼりを完成させました。「きれいだね。」「すてきだね。」といろいろな先生にも褒められ、見上げる子供たちの表情は、とても嬉しそうでした。

4月、年長ゆり組の子供たちは、入園式でお祝いの言葉と歌を贈ったり、翌朝から年少さくら組を「お手伝いタクシー」で迎えたり、赤羽幼稚園のお姉さん・お兄さんとして過ごしていました。昨年は、朝の支度を手伝ってもらっていた子供たちが、年少さくら組の子供の手を引いて保育室に連れて行ったり、園服の畳み方を見せてあげたり、相手の様子を見て自分がどうしたらよいか考えて行動していて感心しました。年少さくら組の子供たちに笑顔や「ありがとう」の言葉を返され、とても嬉しそうでした。

幼児期の1年間の成長は、とても大きいと感じます。そして、このような成長を促しているのは、親や先生など愛情をもって見守る大人に褒められたり、共に時間を過ごし親しみを感じている子供に認められたりする経験だと思えます。

幼稚園教育要領に、幼稚園には「一人一人の幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる」と示されています。幼稚園は、これから子供が育つための学びの基礎づくりの場なのです。そして、子供が成長する力となるのは、褒められたり認められたりする経験を通して「自分のよさや可能性」を子供自身が認識することです。

自分のしたことが褒められ、自分自身が認められたと感じることで人は成長します。マスクの着用が求められなくなった今、言葉だけでなく表情でも、「褒められている」「認められている」ということが伝えやすくなりました。大人と子供、子供と子供も、にっこり笑顔を交わし合い、気持ちを伝え合っていきたいです。

